



羅針盤

塩原 哲夫

Tetsuo Shiohara

杏林大学名誉教授、
Visual Dermatology 編集委員



ついに出了！ 皮膚疾患早わかり用語辞典

業界用語というものがある。その業界の人達のみが使う仲間内の隠語みたいなものと言えるかもしれない。それを使うと何となくその業界の人になったかのような錯覚を覚える一方、よそ者にとってはこの業界用語を使われると何となく疎外感を味わうことになる。

本増刊号に登場する用語は、皮膚科医なら誰でも知っている（知っていなければならない）皮膚科の業界用語である。皮膚疾患の診断には欠かせないこれらの用語の実際例を臨床写真とともに学んだ後、このような臨床を呈する疾患の解説へと続くので、初心者だけでなく、皮膚科のベテランも楽しく復習できる構成になっているのが最大の特徴である。

本増刊号は Visual Dermatology 初の増刊号である。初の増刊号にふさわしく、皮膚科医にも他科の医師にも取っつきやすい用語集になっている。言葉は悪いが、皮膚疾患の理解を助ける“皮膚疾患 虎の巻”なのである。これまでこのような用語集はあっても、このような典型的な臨床写真と一体になった用語集は皆無であった。しかし、こういう典型的な症状の臨床写真を撮るとするのは簡単なようで意外に難しいものなのである。典型的な臨床ほどすぐわかってしまうので、あえて写真を撮ろうとは思わないからである。しかもその写真の quality が高くなければならないとなると、これはきわめて困難な作業になる。

このような典型疹のみを集めた写真集が可能となったのは、本誌編集委員長の大原先生がご自身で撮りためた膨大なスライドの存在による所が大きい。フォーカスの合った、構図の良い写真の数々はいつ見ても惚れ惚れ

する。この素晴らしい写真にふさわしい解説を書かねば折角の写真が泣こうというものであるが、それを一体誰に頼もうかという段になると、考え込まざるを得なかった。そのような難行を人に押しつけることはとてもできない。そこで、編集委員全員で手分けして書こうということになったが、これは引き受けて後悔することとなったのである。多くの写真の中から質の良い写真を選び出し、それにふさわしい解説をつけるという作業は、正直言ってかなり骨の折れる作業となったことを此処に正直に告白しておきたい。

しかしこうして出来上がってみると、予想以上の出来映えで、これなら皮膚科医はもちろん、皮膚科医以外の人にも疎外感なく座右に置いて頂ける本になったのではないかと自負している。まず本文を見る（読む）前に読んで頂きたいのは、座談会である。ここには編集委員達の失敗談が満ちあふれているからである。今の世の中、自らの失敗談を本に載せるというのは勇気が必要な作業である。しかし、あの有名な先生でもこんな失敗をしてきたのだと分かれば、親しみも増そうというものである。いわば業界以外の人達にも門戸を開いているのがこの座談会なのである。これを読んでから、おのおの項目を開いてきれいな臨床写真に目を移せば、皮膚疾患に対する取っつきにくさが氷解するはずである。

本増刊号を絶えず手元に置いておけば、皮膚疾患の理解が容易になるばかりでなく、優秀な皮膚科専門医をそばに置いたと同じ安心感が得られるはずである。これであなたも今日から、皮膚科の業界人である。